

「再生可能エネルギー・自然保護と地域社会・まちづくり」

担当教員名 西城戸 誠／板橋 美也

1 コースの概要

日 程	2013年9月2日～6日
場 所	青森県鱒ヶ沢町、五所川原市
参加人数	21名

2 コースの目的

青森県鱒ヶ沢町において、一般市民が風力発電事業に出資を行った「市民風車」や、リンゴ農家から廃棄物として出される「剪定枝」から作られた薪や木質チップが町内の福祉施設のボイラーの燃料や畑作の肥料として再利用される様子などを見学することで、再生可能エネルギーの地域社会への普及について学びます。また、白神山地（ミニ白神）を訪れて人々の生業と白神山地との関係を学ぶ一方、鱒ヶ沢町内での様々な地域活動（グリーンツーリズム、かかしによる地域活性化）やそれを支援するNPOへの理解を深め、再生可能エネルギー・自然保護と地域社会の再生がどのように連関しているのか、していくべきかを考えます。

3 事前学習

鱒ヶ沢町の再生可能エネルギーに関しては『フィールドから考える地域環境』（ミネルヴァ書房、2012年）、『環境の社会学』（新曜社、2009年）、白神山地については、『自然保護を問いなおす』（ちくま新書、1996年）などを購読しました。

4 行程（内容）

1日目

青森市から鱒ヶ沢町に入り、まず、白神山地の世界遺産登録と時を同じくして発足したミネラルウォーターの会社を訪問し、白神山地の水の商品化と流通についてと、売り上げの一部によって運営されているNPO法人の活動について話を伺いました。次に、リンゴの剪定枝を使った木質チップ工場を見学し、リンゴ農家で農作業体験をしながら、この地域の農業と再生可能エネルギーの循環の現状と課題、可能性について学びました。

2日目

午前中に鱒ヶ沢町役場を訪問して町の概要のレクチャーを受け、過疎地域の現状と課せられた課題と、

「わさお」（ブサカワで有名な秋田犬）のプロデュースを手がける方のお話を伺いました。昼食は農家民宿で鱒ヶ沢の家庭の味をいただき、午後は、中村地区のまちおこし団体の皆さんと、地域活動として展開されているかかしづくりを行いました。

3日目

3日目は、午前中に白神山地（ミニ白神）を訪問し、白神山地の自然に触れながら、世界遺産・白神山地と地域住民の生活との関わりについて学びました。そして、白神山地を源流とする赤石川の鮎を昼食にした後、市民風車「わんず」に訪問、見学し、レクチャーを受けました。風力発電、太陽光発電、チップボイラーを有する、町内の特別養護老人ホームを見学し、地域でエネルギーを生産し、消費している現場の実態と今後の課題を学びました。夜はこの3日間でお世話になった方々との交流会を行いました。

4日目～5日目

鱒ヶ沢町から青森市へ向かう途中に、津軽金山焼での陶芸体験をし、津軽鉄道サポーターズクラブの方の話を伺いました。午後からはオプションツアーとして、五所川原市内の街歩き、梵珠北斗七星伝説のレクチャーを受けました。翌日、梵珠山の登山を行い、梵珠北斗七星伝説によるまちづくりの可能性を探りました。

5 事後学習

写真を通じてフィールドスタディの振り返りを行い、テーマに関する理解を深めました。さまざまな人、活動が単体でみると断片的に見えますが、再生可能エネルギー、自然保護、地域活動が、さまざまな形で関連し、それが有機的に結ばれるときにーそれは簡単なことではありませんがー、過疎地域の再生の可能性が見えてくることを確認しました。



市民風車「わんず」で説明や質疑応答